

近畿以東における 鉄器加工と入手の地域性

Ironworking and Availability of Ironwares East of the Kinki Region

鈴木崇司

SUZUKI Takashi

はじめに

- ① 鉄器からみる東日本弥生社会の特殊性
- ② 鉄器製作遺構の分析
- ③ 技術的視点に基づく分類と分布状況
- ④ 近畿以東における鉄器加工と入手の実態

おわりに

【論文要旨】

近年、鉄素材の故地である朝鮮半島と地理的距離が離れているにもかかわらず、多数の鉄器が認められ、特注品・特製品の存在も指摘される東日本の特殊性が目立つ。ただし、特定器種や資料の分析に基づき考察が進められた当地域の実態は、不鮮明なところも多い。そこで本稿では、弥生時代の近畿以東における鉄器加工と入手の実態を言及すべく、鉄器製作遺構の分析と技術的視点に基づく出土資料の横断的かつ悉皆的分析を実施した。

その結果、①西日本諸地域に比べ、近畿以東の鉄器製作遺構の分布密度は低く、高温操業のものも確認できない、②近畿以東のなかで鉄器製作遺構の密度が高いのは近畿中部であり、東海や関東では古墳時代への移行期まで確認できる鉄器製作遺構がほとんど認められない、③近畿中部の鉄鎌は鍛造されたものが多く、中部高地や関東の鉄鎌は裁断にて作られたものが多い、④近畿中部では薄手の板状鉄斧が多く、鉄剣もほとんど認められない反面、中部高地や関東では厚手の板状鉄斧が多数を占め、地域内での製作が想定し難い鉄剣が多数出土している、といった様相を明らかにできた。

鉄器製作遺構の様相や鉄鎌の成形技法から、積極的な鍛造の実施が想定でき、板状鉄斧の多くが薄手である近畿中部では、鉄斧のようなある程度大型の鉄器も地域内で製作していた可能性がある。他方、鉄器製作遺構に限られ、裁断により成形された鉄鎌が多い中部高地や関東は、裁断を主体とした鉄器加工を行っていたと想定でき、製作に高度な加工技術を有する厚手板状鉄斧や鉄剣は、搬入品だったと評価できるだろう。簡易的な技術で製作された鉄器が目立つ近畿中部は、鉄素材の入手に力を注ぎ、地域内で製作された鉄器を積極的に用いていたと考えられる。他方、大型鉄器の大半が高度な技術で作られていた中部高地・関東は搬入品への依存度が高く、製品化された鉄器の入手に尽力していたと解釈できるだろう。

【キーワード】 弥生時代、近畿以東、鉄器加工技術、鉄器入手